◎入念なケア

靴と同じ手順を踏む。表革は表革の靴と同じように対応する。スウェードも適宜補色クリームを用いる。その意味で、靴に使用する道具をそのまま利用できる。

ただし、ベルトや財布をはじめ、多くの革小物は衣料品にも近い場所にあることが多い。そのため、色が衣類に移ってしまうことを避けるためにも、色を付け足す乳化クリームを使う必要はない。その代わりに、M・MOWBRAYのデリケートクリームを塗るといい。これは、同様にペネトレイトブラシを使用したほうがいい。また、色はニュートラルなので、何色にも対応ができ、油分だけを浸透させることができる。

したがって、「中身をすべて出す」「馬毛でのブラッシング」「リムーバーを使う」「デリケートクリームを塗る」「豚毛で浸透させるのを待つ」「豚毛で再度ブラッシング」「クロスで拭き取る」「保管する」という手順になる。

なお、エキゾチックレザーについては、異なった乳化クリームを揃える必要がある。

鞄は使わないときは、中に新聞紙などを詰め、形を整えたうえで、不織布に入れておき、立てて置く。ベルトはS字フックを使用してクローゼットのスペースにかけておく。

ベルトの表面の革が剝げている人をよく見かけるが、修復方法がないので、破棄することをオススメする。

column 5

お手入れを継続させる方法

海が近いところで育ったからか、小さい頃は魚釣りが好きだった。釣り仲間であるオジさんとの触れ合い、魚の引きを待つあいだの期待感、コーヒーを魔法瓶から注いで飲むひととき、どれも幸せな時間である。だが、僕がいちばん幸せを感じていたのは、釣りの前日に、仕掛けの試作品を自宅の浴室で試し、メモにする時間だった。そして、釣りから帰ると釣果と仕掛けの気づいた点を記録するのだ。たとえ1匹も釣れなくても、仕掛けが根がかりしなかったり、糸が絡まらなかったりすると嬉々としてそのことを記録したものだった。部活の忙しくなる中学生までは、時間があれば100円ほどの少量のエサを買って海に行っていた。暑い夏も、寒い冬も、1人でも。釣りの経験を綴った仕掛けノートは、僕の財産であり、同時にモチベーションの源泉でもあった。1つひとつのアイテムの手入れに関しても具体的に記していた。

スーツや靴との付き合いは購入したら終わりではない。購入後もきちんと手入れをして、

時間をともに過ごすことになるのだ。だから、お手入れをしようとする姿勢に否定的な人はいない。「もったいない」という日本人の文化的な美徳のあらわれでもあるだろう。それなのに多くの人が、スーツのブラッシングや靴磨きの大切さを知りながら、それを継続させることができないでいる。僕もかつてはそうだった。しかし、継続を試行錯誤するなかで1つの方法にたどりついた。それはシンプルなことだった。エクセルで管理して更新を続けるだけである。だが、これを実行している人は、Twitterで知り合った1人しか僕は知らない。

記録している項目は次の5点だ。

・アイテムのメーカー、サイズ、色などのモノ自体の情報
・価格
・いつ購入したか（プレゼントの場合は、贈り主の名前や理由）
・いつまで使用するのか（いつ捨てるか）
・修理したタイミング、修理した箇所、直近のメンテナンス日

この管理法は、自分の持っているモノを可視化する利点があるのはいうまでもない。さらに、ちょっとした工夫をすることで愛着が増し、結果として手入れを継続させることができるのだ。いや、むしろ「早く手入れをしたい」という想いが沸々と湧き上がるくらいである。さて、1つひとつの項目を詳しく見ていこう。

◎アイテムのメーカー、サイズ、色といったモノ自体の情報

「持っていないモノ」も記載するという工夫が有効である。

例えばあなたが靴好きなら1年じゅう靴のことを考えているだろう。当然欲しい靴があるにちがいない。それをエクセルに記載しておくのだ。この本に書かれている最低限のものを揃えていない人もいるだろう。その場合、「（いつかは）持つもの」としてシートに記載しておくといい。趣味としてほしいのか、優先順位が高いものなのかの違いはあるが、記載することで意識するようにはなる。「これを手に入れる」のだと。

経済的な余裕が生まれたときに、このリストに書かれたモノを「実際に」手にするといい。それまでの時間が長ければ長いほど、手にしたときの喜びは大きくなるはずだ。それがあれば間違いなく愛着につながるのである。

◎価格

購入価格を記載する。もちろん、それ相応の対価を支払ったという記録の意味合いが強いが、僕には別の目的もある。減価償却を考えてみよう。モノは時間の経過とともにその価値を目減りさせていく。したがって、購入してから10年以上経つ靴は価値がないと判断されがちだ。しかし、僕たちがビジネスシーンで用いるモノに関して言えば、減価償却という考え方は捨てたほうがいい。むしろ、時間を経るごとに価値は増すのである。いや、価値を高めるために時間があるのだ。

例えば、あなたのシートには、手持ちの3万円の靴が記載されているとする。同時に、いつかは欲しい10万円の靴も併記されている。これを見て、手持ちの靴の価格を再考するのだ。もし、3万円以下の価値しかつけられないならば、購入時の判断か自分の管理の仕方が間違っていることになる。それは反省材料にしなければならない。もし、3万円以上の価値がつけられるならば、判断も管理方法も正しいことになるのだ。そして、その手持ちの靴を10万円の靴に近づけようと意識できる。理想をいえば、経済的な余裕に加えて3万円の靴の価値が10万円に限りなく近づいたといえるときに、その10万円の靴を手に入れるようにしたい。それは、時間を味方にすることができた証拠でもある。さらに10万円の靴に値する人間になったとも考えられないだろうか。そもそも管理できないモノを持つのは、創り手とモノに対して失礼な話である。モノはそれにふさわしい人間が持つべきだし、そういう人に買われたモノは幸せである。

仮に10年かけて3万円の靴を10万円の価値に上げられれば、これほどの愛着を持つこともないだろう。もっとも、そのときには10万円でその靴を譲ってくれという人がいても、手放したくはないだろう。

・いつ購入したか（プレゼントの場合は、贈り主の名前や理由）
・いつまで使用するのか（いつ捨てるか）

この項目を記入するときは、使用期間を事前に設定するといい。プレゼントならばそのストーリーをいつでも思い出せるように、贈り主の名前も記載しておくのである。

実用面でも、いつ買い替えをするかを事前に把握しておくことで予算立てができる。だが、そのことよりも期間を設定するのは、それがモノと自分との約束になるからだ。状態によっては、この期間が延長されることもある。目に見える「約束」を破ることは良心が痛むだろう。プレゼントだったり、特別なストーリーがあれば尚更である。寿命が目に見えることで、できるだけそれを長引かせたいという気持ちも湧いてくる。

◎修理したタイミング、修理した箇所、直近のメンテナンス日

素直に更新することが大事である。長くモノを使いたいと思うと、自分の管理方法を批判的に考える必要が生まれる。いつ修理したのか、どこを修理したのかということを記載しておくことで、何を酷使しているのか、あるいは丁寧に使っているのかということが一目瞭然になる。直近のメンテナンス日を記載することで、やると決めたことができていない不甲斐ない自分も認識せざるをえないだろう。誰も見ないのだから、素直に記載するようにする。ここまで自分を追い込むことができれば、あとは行動を起こすだけだ。

こうしたことを記録していないと認識すらできない。認識できなければ行動にもつながらない。行動につながらなければ、価値が落ちるばかりのモノが手元に残るだけだ。素直に更新すれば必ず行動は変わってくる。なぜなら、気持ちが変わるのだから。

たった1枚のエクセルシートですら、それが財産になり、モチベーションの源泉になる。僕の魚釣りの仕掛けメモのように。

あとがき

Rule 21

一度そでを通したらすべて忘れる

この本で説明したように、ある一定レベルのスーツスタイルはロジックで説明可能であり、その選択理由を説明できることがその人のセンスのバックボーンといえる。スーツに関する知識は体系立ててインプットしておけば汎用性も生まれる。そして、一度身につけてしまえば、必要なものの判別がすぐにつくようになる。この本を読んだあとに「気分」で買い物をすることもなくなるだろうし、周囲の人がいうことを中心に買い物することもなくなるにちがいない。

手元に17歳になるSEIKOブライツの時計がある。両親は僕の20歳の誕生日に「最後のプレゼント」として時計を選んでいいといった。ただし、次の条件があった。

- 日本のメーカー
- 白のフェイス
- 10万円以下